

研究課題名	Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs (NSAIDs) 起因性小腸傷害における好中球細胞外トラップ (NETs) の役割と診断・治療法確立
研究の意義・目的	低用量アスピリンを含む非ステロイド性抗炎症薬 (non-steroidal anti-inflammatory drugs: NSAIDs) は消化管傷害を起こす頻度の高い薬剤であり、小腸に高頻度で消化管傷害を起こすことが知られています。NSAIDs 起因性小腸傷害は時として重症化することが知られていますが、その病態は十分に解明されていません。NSAIDs 起因性小腸傷害の診療データや組織検体を好中球細胞外トラップ (NETs) に注目して後方視的に検討することで、NSAIDs 起因性小腸傷害の病態生理を明らかにすることを目的とします。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可後～2026年3月
研究協力をお願いしたい方 (対象者)	研究機関の長の研究実施許可後～2026年3月までの期間に、大阪公立大学医学部附属病院のダブルバルーン小腸内視鏡検査を受けた年齢20歳以上の受診者を対象とします。研究者の判断により対象として不適当と判断された受診者は研究より除外します。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。本研究は、主に保存された小腸組織に免疫組織染色を追加することによって行います。使用する試料、情報は以下の通りです。 1 ダブルバルーン小腸内視鏡検査で採取された既存の生検検体(空腸、回腸) 2 患者基本情報:年齢、性別、身長、体重、BMI、臨床症状、併存疾患、病悩期間、受診回数、受診間隔、内服薬 3 血液検査結果:健診・一般血液検査結果(白血球数、好中球数、ヘモグロビン値、CRP) 4 カプセル内視鏡所見、ダブルバルーン小腸内視鏡所見 5 消化管生検検体における好中球数
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科学、消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 先端予防医学 研究責任者 灘谷祐二
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 先端予防医療学 (担当者氏名) 灘谷 祐二 MedCity21 人間ドック・健診エリア(電話番号:06-6624-4010) メールアドレス:dada@omu.ac.jp